



CSR REPORT 2023

✳ 服部興業グループ

2022.4.1-2023.3.31

CONTENT

02

トップメッセージ

03

経営理念

04

組織図

05

SDGs の取組

07

トピックス「山と海を繋げる」

10

経営理念を実現するために（組織統治）

12

健全な企業風土づくり（人権）

14

従業員一人ひとりが活躍できる環境づくり（労働慣行）

18

持続可能な環境への取り組み（環境）

19

法令を遵守した事業活動（公正な事業慣行）

20

お客様の安心と満足のために（消費者課題）

21

地域のお客様と共に（コミュニティへの参画）

25

第三者意見

CSR レポート編集方針

私たちは経営理念のもと、日々の事業活動をおこなっています。その報告書として CSR レポートを作成するにあたり、世界のすべての団体に適用可能である社会的責任の国際規格『ISO26000』を手引きとして活用しています。同規格のガイドラインに従い以下の7つの原則に則っています。

【7つの原則】

①説明責任

②透明性

③倫理的な行動

④ステークホルダー

⑤法の支配の尊重

⑥国際行動規範の尊重

⑦人権の尊重

私たちの活動を以下7つの中核課題に分類し編集しています。

7つの中核主題	服部興業グループの7つのカテゴリー
6.2 組織統治	経営理念を実現するために（組織統治）
6.3 人権	健全な企業風土づくり（人権）
6.4 労働慣行	従業員一人ひとりが活躍できる環境づくり（労働慣行）
6.5 環境	持続可能な環境への取り組み（環境）
6.6 公正な事業慣行	法令を遵守した事業活動（公正な事業慣行）
6.7 消費者課題	お客様の安心と満足のために（消費者課題）
6.8 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	地域の皆様とともに（コミュニティへの参画）

社員の幸せと企業の持続的成長を実現する経営を目指して

▶休暇制度の見直し

今年度になって4名の男性社員が育児休暇を取得しました。今まで有給休暇を使って数日は出産や育児の手伝いをするケースはありましたが、4週間という長い期間は初めてです。周囲や会社にどう影響するのかを懸念しておりましたが、蓋を開けてみれば様々なプラス効果がありました。例えば、普段はなかなか出来ない、部内メンバー間の情報共有や業務をシェアしながらチームワークで仕事をするが増えました。また、本人が休暇中に問合せや緊急事態の際にもリモートで対応したようです。改めて、社内外と円滑な人間関係の構築の重要性やテレワーク等のITの仕組みを活用することでより働きやすい環境整備が可能になることを再認識出来ました。

▶安心して長く勤められる会社

長期休暇は、出産育児だけでなく、親の介護や自身の病気治療といった場合にも、皆さんが懸念なく取得出来る様にしなければなりません。休暇取得だけでなく、時短勤務、女性やシニアの雇用促進等々の人事・労務制度を整備して行きます。また、従来の業務を見直し、無駄を省き、生産性向上が意識されていることが重要です。各々が自らのスキルアップに挑戦することも会社でサポートして行きます。社員が意欲と能力を発揮することで心身ともに健康で働き続けることが出来、個々が成長することで、組織が成長して行く会社でありたいと思います。

▶一人一人の意見が必要

今回育休取得のポイントは、ただ制度を利用しただけでなく、会社と本人がしっかり話をして、その対応策を周知したことです。そして休業時の業務分担をはっきりさせることで皆の不安が解消されました。まさに全員参加の経営です。会社には人に関わる様々な課題が存在します。これまで以上に社員が長く安心して活躍出来る、そんな組織風土を築き上げていくために、皆さんからも意見や提案をもらえたらと思います。

代表取締役社長

服部 俊也

01 | CSR REPORT ★ 2023

CSR REPORT ★ 2023 | 02

経営理念

実践



牛窓本宅広間に掲げられていた「実践」の書

ミッション

正しいことを実践し、
社員の幸福と社会の進歩発展に貢献します

ビジョン

人づくりを原点に、仕事の品質、安全、環境を追求し、
人々の豊かな暮らしを実現する地域ナンバーワン企業を目指します

バリュー

経営信条「3つの満足」 CSR方針「社業発展、社会貢献」
顧客の満足・社員の満足・会社の満足 SDGs への取組

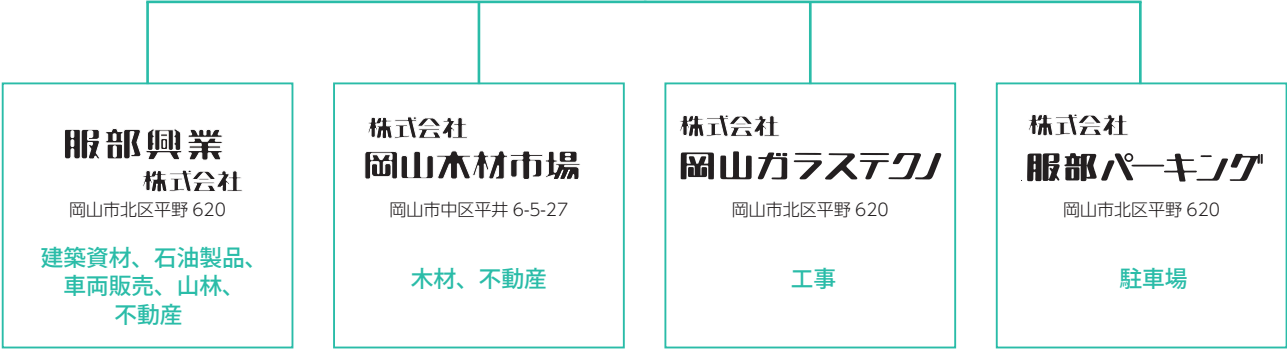
行動規範

家法・考働基本・行動指針・5S活動・服部フィロソフィ

組織図

服部興業グループ

グループ売上高：103.3億円(2022年度)
グループ人員：140名



- ガラスサッシ部
- 外壁部
- セメント部
- 土木資材部
- 山林部
- 総務部
- 石油部
 - Dr.Drive セルフ平野 SS
 - Dr.Drive 倉田 SS
 - ジョイカル倉田店
 - コインランドリーピコラ倉田店
 - Dr.Drive セルフ花尻 SS
 - セルフ古都宿 SS
 - セブン・イレブン岡山古都宿店
- 産業燃料
- 保険

- 営業本部
- 管理部

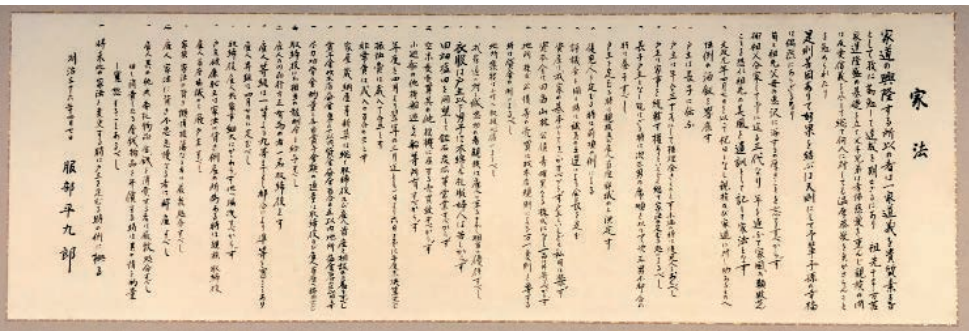
- ガラス課
- 土木課
- サッシ課
- 配送
- 外壁

駐車場

家法



三代目 服部 平九郎



経営信条

三つの満足

お客様に満足して頂くことが、社員の喜びであり、
会社が発展をもたらすものと確信しています。

- 1 顧客の満足 期待された以上のサービスの提供
- 2 社員の満足 生きがいのある仕事、自己の成長、生活の向上
- 3 会社の満足 適正な利潤の獲得、利益の分配

行動指針

即反応・即実行 仕事に気魄と気働き

行動指針

	好感	安心感
即反応・即実行	感謝の気持ちを表そう 自ら進んで行動しよう 理解する人になろう	約束は守ろう 報告はすぐしよう 勇気をもって継続しよう
気魄・気働き	身だしなみを整えよう いつも笑顔で接しよう バイタリティーでやり遂げよう	相手の立場で考えよう 自信をもって行動しよう 成功への執念を持とう



本社



(株)岡山木材市場



(株)岡山ガラステクノ



(株)服部パーキング

SDGs の取り組み



SDGs とは、Sustainable Development Goals の略称で、2015 年 9 月の国連サミットで採択された、国連加盟 193 か国が 2030 年までに達成する目標です。エネルギー問題や気候変動、教育や健康、さらには働きがいや経済成長も踏まえたもので、私たちの企業活動の目的と一致するものも多くあります。

服部興業グループでは 2018 年 4 月 7 日に SDGs 宣言を行い、成長目標を定めました。今後も我々が取り組むべきゴールに向けて事業を行っていきます。

服部興業グループが取り組む SDGs

本業を通じて持続可能な開発目標の実現に努力します。



2022 年度 SDGs 目標・結果				2023 年度目標	
部門	2022 年度目標	数値	結果	2023 年度目標	数値
グループ全体	①休業災害ゼロ・労働災害の防止	休業災害ゼロ	0 件（100%）	①休業災害ゼロ・労働災害の防止	0 件
	②資格・免許取得促進による人材育成の強化		52 件	②資格・免許取得促進による人材育成の強化	
	③定期健康診断と再検査フォロー	100%	100%	③定期健康診断と再検査フォロー	100%
	④ CSR 活動の情報発信	12 回	6 回	④ CSR 活動の情報発信	12 回
ガラスサッシ部	①玄関ドア、引戸、サッシの交換取付	70 件	67 件（96%）	①玄関ドア、引戸、サッシの交換取付	100 件
	②複層ガラス施工	8,000㎡	4,139㎡（52%）	②複層ガラス施工	5,000㎡
	③断熱・日射遮蔽商品工事	40 件	45 件（113%）	③断熱・日射遮蔽商品工事	200 件
外壁部	①現場ロス材ゼロへの取り組み		80%	①現場ロス材ゼロへの取組	90%
	②現場パトロールによる安全意識の向上、無事故無災害	1 回 / 月	100%	②現場パトロールによる安全意識の向上、無事故無災害	1 回 / 月
	③ CAD、3DCAD の勉強会	1 回 / 月	100%	③パネル施工時の破損による取替削減	5 件以内
セメント部・土木資材部	①既設資材の再利用	10 件	60%	①既設資材の再利用	10 件
	②エコ資材の取り扱い	15 件	350%	②エコ資材の取り扱い	30 件
	③耐震化・長寿命化工事	10 件		③現場パトロールによる安全意識の向上（無事故・無災害）	1 回 / 月
	④資格・免許取得（フォークリフト）	2 名	100%		
石油部	①ガソリン満タン・プラス 1 缶	25L / 台	24.1L / 台（96%）	①ガソリン満タン・プラス 1 缶	25L / 台
	②災害時対応訓練	3 回 / 年	3 回 / 年（100%）	②灯油配達の効率化	150L / 回
	③セブン・イレブンフードロス削減	前年比△ 15%	△ 26%（173%）	③古紙回収数量	100,000kg
	④安全納入パトロール	3 回 / 月	1.3 回 / 月（43%）	④社外研修参加	40 人
山林部	①森林整備による CO ₂ 固定化	間伐 40ha	24.44ha（61%）	①森林整備による CO ₂ 固定化	植林 0.5ha
	②子どもへの森林・林業教育	200 人	174 人（87%）	②山と海をつなぐ取り組み継続	牡蠣いかだ用丸太 400 本生産
	③絶滅危惧種の把握と保護	山の便り発信 45 回	31 回（69%）	③パートナーシップ推進	産官学連携 3 件
	④パートナーシップ推進 取引先などとの協働	5 件	3 件（60%）		
総務部	①社会貢献活動情報発信（募金、寄付、清掃等）	1 件 / 月	59 件	①社会貢献活動情報発信（募金、寄付、清掃等）	60 件
	②ペーパーレス推進	前年比△ 10%	△ 46,009 枚（△ 15%）	② DX 推進	4 件 / 年
	③社外研修・教育推進	40 名 / 年	61 名（153%）	③社外研修・教育推進	80 名 / 年
	④サークル活動推進	2 件 / 月	4 回 / 年（33%）	④カーボンニュートラルに関わる情報共有	1 件 / 月
(株)岡山木材市場	①合法木材の取扱量	9,050㎡	実績 7,820㎡（86%）	①合法木材の取扱量	8,200㎡
	②県産材の取扱量	3,400㎡	2,795㎡（82%）	②県産材の取扱量	2,100㎡
	③ペレット販売量	40t（2,000 袋）	2,795㎡（82%）	③ペレット販売量	56t（2,800 袋）
	④地域貢献	3 回	2 回（67%）	④地域貢献	3 回
(株)服部パーキング	①場内・周辺美化活動	毎日	100%	①場内・周辺美化活動	毎日
	②事前精算比率向上	70%	61%	②事前精算比率向上	70%
	③歩行歩数計測	10,000 歩 / 日	93%	③歩行歩数計測	10,000 歩 / 日
(株)岡山ガラステクノ	①週 1 回のノー残業デー	100%	78%	①連続無災害記録の実施 4000 日	366 日
	②個々の力量を見極めて適材適所に配置	100%	93%	②月 1 回の安全周知会の実施	1 回 / 月
	③資格・免許取得による人材育成の強化（1 級ガラス、大型免許）	各 1 名	0%	③週 1 回のノー残業デー	49 回
	④月 1 回の安全周知会の実施	100%	92%	④資格・免許取得による人材育成の強化（1 級ガラス・大 / 中型免許）	3 名

トピックス

山と海を繋げる

服部興業の創業の地である牛窓(現瀬戸内市牛窓)と1913年(大正2年)から林業を行っている県北真庭市にある山林部、そして事業のルーツでもある岡山木材市場。2022年度はこれらを繋げ、活かす取組を行いました。



▶カキ筏用材納入

担当者感想



山林部
河田 草一

2022年12月に備前市の日生漁協様へカキ筏用丸太165本を納入しました。カキ筏用丸太はカキを養殖するために海に浮かべる筏の骨組みで末口6cm、長さ9.5mの皮を剥いたヒノキです。一昨年参加した林業塾で、岡山を含めた瀬戸内〜九州までカキ筏用材が三重県から出荷されていると知り、送料を考えると私たちに地元の利があるのではと考えました。日生漁協に話を聞かに行くと、先方も地元では量が集まらず、仕方なく三重から購入しているとのこと、ぜひ納めて欲しいとのことでした。

実際にやってみると9.5mという長さや、曲がりや太さの許容範囲、皮むきの手間は大きく、皆で試行錯誤しながらの作業でした。最終的に大型車約1車分を作ることができ、先方にも喜んでいただきました。長物の運搬や皮むきを行う広い作業スペースの確保など課題もありますが、今後も試行錯誤しながら、海と山がつながるこの取り組みを進めていきたいと考えています。



普段出材している木材よりも細くて長いため、伐倒や運材でも気を遣います



高圧洗浄機を使った皮むき



カキ筏



大型車を使って日生漁港へ165本を出荷

▶慶應義塾中等部創立75周年記念植林

担当者感想



山林部
川原 洋平

2023年3月29日、真庭市の慶應義塾学校林「岡山落合の森」にて、慶應義塾中等部創立75周年記念植林が行われました。当日は中等部生21名、学校関係者16名、来賓8名、真庭市4名など50名以上の参加者のもと盛大に行われました。

岡山落合の森は2003年に慶應義塾へ寄付した山で、面積は2.5ヘクタールで、カラマツ、ヒノキ、アカマツ、そして多くの広葉樹で覆われた豊かな山です。

作業手順や獣害対策の講義の後、実際に現場で植えるとなると穴が掘りにくかったり、苗木同士の間隔が分からなかったりといった難しさもあったようですが、子供達も大人もみな笑顔で嬉しそうに木を植えている姿がとても印象的でした。この経験が、森や木材に興味を持つきっかけになれば幸いです。植林後はわっぱ弁当を食べたり、真庭市長や学校長へインタビューをする子供もいました。山林部メンバーによるツリークライミングのアクティビティや森の散策案内も好評だったようです。事前準備の段階から真庭市の方々の協力をいただき、まさに産学官の連携で開催されたイベントとなりました。



800㎡に200本植栽



ヒノキ苗木説明

慶應義塾中等部生の感想 (一部抜粋)

植林という今まで体験したことのないことが出来てとても楽しかったです。植えるのが思ったより大変でしたが、予定以上に7本も植えられて、それが将来大きく育って中等部にやって来るのを考えたら、まだ先のことがとてもワクワクします。

林業は大変なお仕事ですが、必要不可欠であり、どこかで私達の植えた木が使われるのなら、また植林をして誰かにその木を使ってもらいたいと思います。



植林の様子

▶旭川一斉清掃

社員とその家族、計8名が旭川一斉清掃に参加しました。今年は例年の後楽園周辺から岡山木材市場に近い旭川周辺に場所を移し、早朝から約1時間程度ゴミ拾いをしました。周辺は参加者は少ないながらもゴミが多く、ペットボトルやタバコの吸い殻などでゴミ袋7袋がいっぱいになりました。地道な活動がSDGs「14.海の豊かさを守ろう」、「15.陸の豊かさを守ろう」に繋がっていくと感じました。



2022.11.6

トピックス

▶平井まつり木工教室

担当者感想



岡山木材市場
河野 旭道

岡山木材市場では、2010年より地域貢献活動の一環として平井小学校で開催されている「平井まつり」で木工教室を行っています。2022年度は山林部とも協力し、イスづくりとヒートペンを使った木製ストラップづくりを行いました。また、木の環境への貢献を身近に感じてもらえるようポスターや木材クイズを掲示しました。身近な「木づかい」を通して木材の良さを伝えられ、SDGsの取り組みとしても一つの形となりました。この活動は、岡山県木材組合連合会が行う木材利用拡大推進事業として補助金の対象にもなりました。今後も様々な制度を活用しながら活動を通じて、広く一般の方々へ木材の持つ暖かみなどの良さをPRし、木材活用を推進していきます。



2022.10.29



2022.10.29

参加者感想

山林部
河田 草一



専門外の木工を岡山木材市場メンバーから教えてもらいながら子どもたちに指導するという事で難しさもありましたが、参加者みなさん真剣に取り組んでくれ、教えるいい経験になりました。今後もオカモクとコラボしていければ新たな展開が見えてくるのではないかと思います。

▶落合木材を使った牛窓本宅の改修

牛窓は服部興業創業の地です。この地にある服部家本宅は明治42年12月から大正6年5月までの約7年6か月をかけて建設されました。その後大きく構造は変えないながらも度々増設・改良を行い現在に至っています。

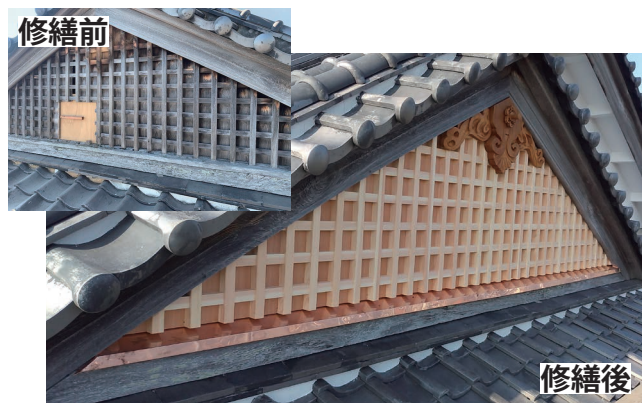
担当者感想



岡山木材市場
徳永 睦

牛窓本宅の妻部老朽化に伴い改修工事を行いました。写真（上2枚）の部分妻格子と言います。（入母屋造りの妻部分に設けられる格子状の妻飾り。社寺・城郭によく見られる）

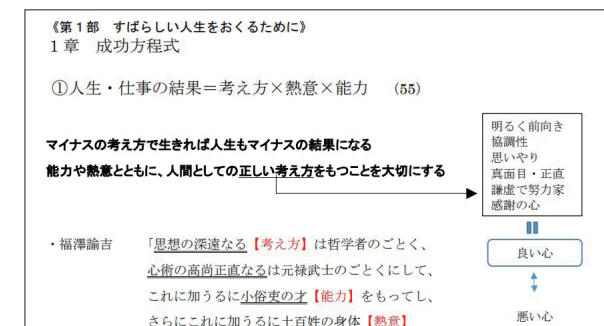
管理人・棟梁と熟慮し、格子部分は桧赤身勝ち材、格子裏板は杉赤身桎板を利用しています。木材のほとんどは落合山林から出材した桧杉の原木を現地で製材・乾燥したものです。地産地消で山と海を繋ぐ活動です。今後も山林部と岡山木材市場での協働を考え行動していきます。



経営理念を実現するために（組織統治）

▶経営理念（服部フィロソフィ）の理解・実践を図っています

創業200周年を迎えた2018年に40項目からなる「服部フィロソフィ」を定めました。人として正しいことを実践し、正しい判断ができる人材を育成するための羅針盤になっています。毎朝2名ずつ行っている朝礼スピーチでは、仕事やプライベートでの気づきや行動とフィロソフィを照らし合わせて考えることで、理解と実践に繋げています。



▶決戦の日

毎月1回、各部門・関連会社の成功事例を発表する勉強会を開催しています。他部門の成功事例を自身・自部門の業務に水平展開したり、取引先に他部門や関連会社の商品を提案できたりと、「オール服部」にも繋がっています。また、取り組んだ仕事やが服部フィロソフィの項目にどのように関連しているかを改めて考えるいい機会にもなっています。年始の新年互礼会では、前年の発表の表彰も行っています。

2023年新年互礼会表彰者・発表タイトル

妹尾 敏弘	「参画意識の向上」	河野 旭道	「平井祭り」
伊達 弘倫	「渦の中心になる」	中山二実徳	「ベクトルを合わせる」
平田 晴人	「ベクトルを合わせる」	横田 直人	「建材販売」
本多 正樹	「熱意と執念」		



2022.7.9

▶実践知研究会

2019年より毎月1回、経営コンサルタントの矢田昌宏先生による勉強会・実践知研究会を行っています。2022年度は約30名が4～5名の班に分かれ、新しい挑戦や仕事の悩みなどを先生やメンバーから意見をもらい自身の業務に活かしています。現地・現物・現実の3つの「実」を確認する「三現主義」やメンバーの集合知を活かしてよりよい結果を出す「集合天才」「内発的動機」キーワードにしています。



2022.4.15

参加者感想



ガラスサッシ部
小野 和夫

2022年12月から新メンバーとして参加しています。先生には、何気ない仕事の会話の中から自分では考えていなかったような問題点を拾い上げてもらうことが多く、非常に考えさせられる時間になっています。特に印象に残っているのは、「難しい」という言葉の定義です。『「難しい」をマイナス面としてとらえると、「難しい」＝経験が無い・苦手なこと、となって前向きに行動が出来ないだけでなく無駄に時間がかかってしまう。しかし、それをプラス面としてとらえると、「難しい」＝新しい経験を積み予想力や仮説力を磨けること、となり、その結果仕事の幅が広がる。』というアドバイスでした。現在営業として日々新しいことへの挑戦を続けていますが、難しいと感じることが多々あります。今回のアドバイスを活かし、マイナス思考にならず、プラス思考で常に明るく前向きに物事を考え、仕事の幅を広げていきたいです。

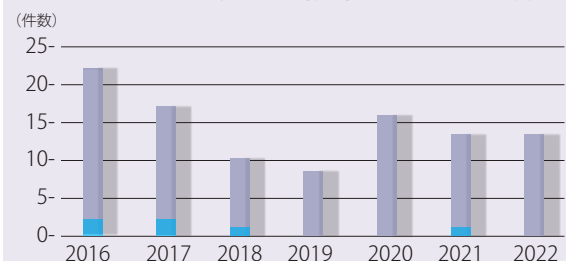
▶安全への取り組み

私たちの職場環境は建築現場や山林作業などの危険業務や、危険物を取り扱う仕事もあります。従業員や協力会社の方が安心して働くため、営業推進と安全は車の両輪であるという価値観を共有しています。新入社員への安全教育も実施することで、安全意識の醸成に努めています。

2022年度の労働災害は13件で、うち過失ゼロが2件、休業災害は0件でした。今後も事例の共有や安全周知会などを通じ、無事故無災害で仕事に取り組んでいます。



グループ全体 労働災害統計
(軽微な物損事故・過失ゼロ含む)



▶安全大会

安全大会とは、安全衛生に関する決起集会で毎年開催しています。2022年度の安全大会では、服部興業グループの社外安全コンサルタントである労働安全コンサルタント本郷信夫先生から、各自の計画や安全衛生法を徹底し、ポイントを押さえながらリスクアセスメントを実施していくよう講評頂いたほか、「これからの『安全管理』はどう進む!」と題してご講演頂きました。安全に対して「柔軟で弾力的対応」をとり、労働災害防止に努めます。



▶安全パトロール

2022年度は下表の通り事業主パトロールを実施しました。パトロール結果や現場担当者のコメント等を報告書にまとめ、全社員で共有しています。今年度から改良した点は、文章や写真だけでなく、動画でも共有するようにしたことです。より現場のことをイメージしやすくなりました。

2022年度パトロール現場

【月】	【現場名】	【担当部門】
6月	岡山芸術創造劇場 ハレノワ	ガラスサッシ部、外壁部、岡山ガラステクノ
7月	笹目谷産業廃棄物処理施設建設工事	セメント部、土木資材部、岡山ガラステクノ
9月	萩原工業㈱笠岡新工場建設計画	外壁部
10月	DPL 岡山空港南B棟新築工事	外壁部
11月	ナカシマHD ㈱新社屋新築工事	ガラスサッシ部、岡山ガラステクノ
12月	総社市長良地区造成工事	セメント部、土木資材部、岡山ガラステクノ
1月	カモ井加工紙新築事務所棟	岡山ガラステクノ
2月	K邸リシェント工事	ガラスサッシ部、岡山ガラステクノ
	津島南造成工事	セメント部、土木資材部、岡山ガラステクノ
3月	岡山ヤクルト販売㈱移転新築工事	外壁部



健全な企業風土づくり（人権）

▶男性の育児休暇を勧奨しています

今までは女性の取得が中心でしたが、男性でも積極的に取得が出来るよう協力体制を整えています。直近では対象者3名が取得しました。法対応はもちろんですが、取得を勧奨する雰囲気を作っていくことも重要だと感じています。

取得者感想

石油部
安原 周平



第一子誕生に伴い計4週間の出生時育児休業を取得しました。社内・部内の協力や得意先の皆様のご理解もあり、期間中は妻と協力し育児に専念することができました。出生からの約1カ月をともに過ごすことができ、毎日新たな気づきがある充実した日々を送ることができました。

岡山ガラステクノ
横田 章



今回第二子誕生に伴い2週間の出生時育児休業を取得しました。育児休業の取得前は少しは時間が空くかなと思っていましたが実際は妻の体も安定しない中で、妻の側で育児のサポートをする時間と、普段やり慣れていない掃除や洗濯、買い物、また長男の面倒も見なくては行けなく時間が足りないぐらいで、妻の育児と家事の大変さを実感しました。育児休業中も仕事の事が気になっていましたが、今回の育児休業を取得したことで妻から大変助かったと言ってもらえたことは何よりの成果です。

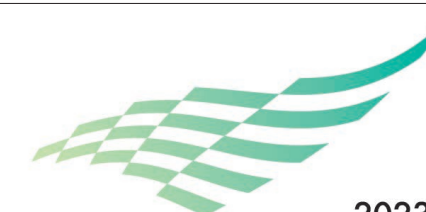
岡山ガラステクノ
吉澤 宏樹



第二子誕生に伴い2週間の育児休暇を取得しました。我が家の場合は長男が保育園に入園しておらず、出産後の妻の入院時に長男の面倒を見てもらう当てもなく、今回育児休暇を取得させて頂き本当に助かりました。期間中は家事、育児と大変でしたが、家族との時間をしっかり過ごすことができました。

▶健康経営優良法人 2023

服部興業、岡山木材市場、服部パーキング、岡山ガラステクノの4社が健康経営優良法人の認定を受けました。今後も従業員が心身ともに健康に働き、それぞれの能力や個性を最大限発揮しながら毎日いきいきと働くことができる「健康人材」が集まる会社を目指していきます。

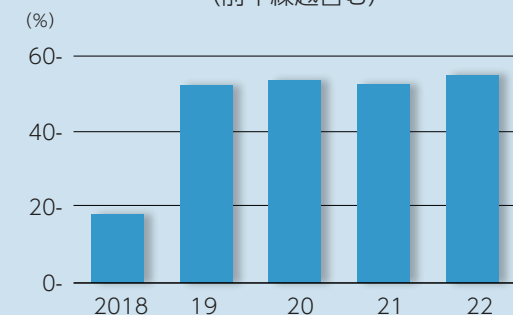


2023
健康経営優良法人
Health and productivity

▶有給休暇取得率

2019年度から企業は従業員に「年間5日の有給休暇」を取得させることが義務となりました。当社でもGWや年末年始の前後などに有給奨励日を設けて、有給休暇の取得を促進しています。

有給休暇取得率
(前年繰越含む)



▶健康管理・健康維持

健康診断の結果が要再検査の従業員を対象に受診勧奨を行っています。

また、インフルエンザ予防接種費用の会社負担、毎朝朝礼でのラジオ体操、定期的に社内グループウェアでの健康ワンポイント情報の発信など、さまざまな形で従業員の健康にアプローチしています。



▶配偶者健康診断

健康診断の機会が少ないと思われる控除対象配偶者の方向けに健康診断を勧奨しています。加入している協会けんぽでは40歳以上の配偶者の方が受けられる特定健診は簡易的なものであること、また40歳未満の方は受診できないことから、従業員と同じレベルのプランをオリジナルで作成、会社で費用を負担し受診していただいています。

22年度制度活用：9名

受診者の感想

健康診断は毎年受診していましたが、自分で予約する場合はどうしても後回しになりやすくオプションを加えると予約可能日も限られる為、決まった時期に希望のプランで予約して頂けるのはとても有難い事でした。大変お世話になりました。

▶健康情報の発信

社内グループウェアでは、毎月1回全国健康保険協会（協会けんぽ）の今月の健康ワンポイントを発信しています。また、2022年は社内報『わかば』に産業医の眞壁クリニック眞壁院長より「熱中症とコロナの対策」と題してご寄稿を頂きました。

今後も情報発信を通じて、健康への意識づけを行っていきます。



社内報『わかば』22年7月号

▶投資に関する基礎知識セミナー

中国銀行様、中銀アセットマネジメント様による社内金融セミナーを開催しました。資産形成やライフイベントについて考えるきっかけになったようです。今後も業務にだけでなく、従業員のためになる様々な情報提供を行っていきます。

参加者の感想

投資に興味があっても、ネット上の情報はどれが正しいのか不安なことも多かったのですが、今回直接お話を聞くことができ、個別の質問にも真摯に答えてくださって理解が深まったとともにとても安心感がありました。これを機に投資についてしっかり検討していきたいと感じました。

従業員一人ひとりが活躍できる環境づくり（労働慣行）

▶キックオフ

社員一人ひとりが能力を最大限に発揮し経営者マインドをもって仕事に取り組む“全員経営”を大切にしています。そのために、4月と10月の半期ごとに部門・会社の実績と目標を共有する場がキックオフです。



▶表彰制度

毎年、年始の新年互礼会にて表彰を行っています。今回はのべ35名が表彰を受けました。

勤続30年	1名
資格取得	9名
無事故無違反（10年以上5年毎）	8名
販売協力	上位3名
サンクスカード	上位3名
オリーブ商品販売	上位3名
決戦の日	7名



▶服部アワード

グループ全体での望年会で、1年の功労者を従業員の投票で決定し表彰しています。服部フィロソフィや多くの人を巻き込み協働する「オール服部」の実践、新しいことへの挑戦など様々な点が評価ポイントとなっています。



MVP受賞者の感想

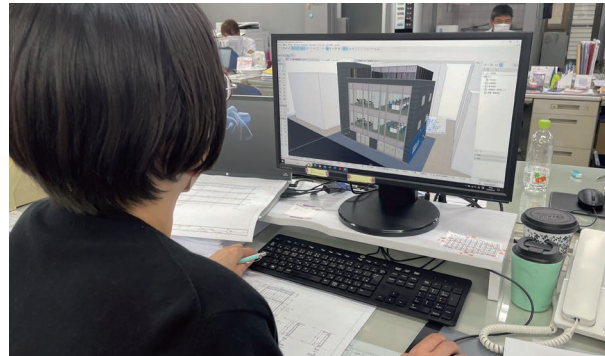


ガラスサッシ部
村上 正悟

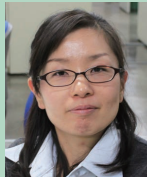
周りの人に支えてもらいながら大きな現場を納めることができ今回のMVP受賞につながりました。社外の人達とも多く関わり、いい人たちと巡り合うことができたのは大きな財産になりました。現場で得たことを今後に活かし、またできなかったことはできる様に努力して、一步一步自分の成長、部門の成長、そして会社の成長に繋がっていききたいと思います。

▶自己成長、スキルアップ支援

資格へのチャレンジや仕事の幅を広げる挑戦を後押ししています。今年度は3D CADソフトの導入に合わせて、年間パスポート（何度でも受けられるオンライン講座）を手配しました。外壁部の部門秘書が日々勉強しています。今後も、DXや女性活躍などをキーワードに支援していきます。



受講者感想



外壁部
矢吹 ユミ

2022年2月から3D CADのオンライン講習を受講しています。受講のきっかけは、各施工業者が3Dで作成した施工図データを重ね合わせ立体的な建物を作成し他職種との不具合がないかパソコンやモバイル端末で確認できるシステムを元請が導入したためです。私は外壁の施工図を作成するのですが、講習では一から建物を作成していくので、ピンポイントで外壁を作成するようなクラスはありません。しかし、実務では必要のない事も多く学べるので3D CADの可能性をとて強く感じています。23年度は3D CADで施工図を作成する物件が2物件あります。今後はより3D CADが普及してくると思うので、出来る事を増やして仕事の幅を広げていきたいと思っています。

▶山林研修

2022年度は新入社員3名が参加し、3日間の山林研修を行いました。山林踏査、松茸山の清掃、獣害を防ぐための防護柵の設置などを行いました。

参加者感想



石油部
中田 準人

研修を通じて特に感じたことは、チームワークの大切さです。先輩社員から「もっと発言を増やして意思疎通を図ろう」とアドバイスを頂いてからは、メンバー全員が発言することを意識して研修に取り組みました。日々の業務でも意見や考えをしっかり発言し、チームワークを深めています。



2022.10.26



2022.10.28

▶女性目線での改善提案「オリーブ会」

女性従業員10数名で毎月1回、働きやすい環境づくりを目的に実施しています。2022年度は、電子帳簿保存法に対応したシステムの導入やトイレの改装工事の検討（進行中）等を行いました。今後も女性の声で会社を良くしていく事を目標に取り組んでいきます。

▶サークル活動支援金

社外活動を活性化させることにより、コミュニケーションやチームワークの向上を目的とした制度です。各種スポーツ、アウトドア、勉強会、ボランティアなどを実施した際に、一人1,000円/回の支援金が支給されます。2022年度はサークル活動が4回行われ、のべ38人がこの制度を活用しました。



2022.4.23

▶誕生日プレゼント・誕生月昼食会

毎年誕生日にお祝いとして社長直筆のメッセージカードとお菓子のプレゼントが届きます。また、同じ誕生月のメンバーと社内でランチを囲む昼食会も行っています。

▶結婚・出産・新築お祝い

結婚・出産・新築の従業員にお祝い金が渡されました。2022年度は結婚4名、出産2名、新築3名でした。



2023.3.7

▶新入学お祝いの会

毎年3月に次年度に小学校に入学するお子様を持つ従業員のご家族を会社に招き、新入学お祝いの会を開催しています。社長からのお話やお子様へ絵本・文具等のプレゼントや、作成した動画をみてお父さん・お母さんが会社でどのような仕事をしているのか理解を深めてもらっています。また、お子様には「小学校に入学したら頑張りたいこと」を描いた絵を持ってきて当日発表してもらいます。2022年度は3家族が対象でした。



2023.3.27

新一年生感想

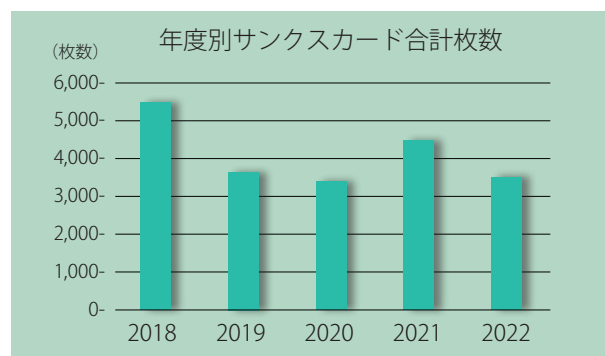
プレゼントをもらったり、私の絵を見て「すごい！」と言ってもらえたり、とても嬉しかったです。そしてパパの会社の人達とおしゃべりして、とても嬉しかったです。お友達の絵も木登りをしている絵や体育をしている絵など、すごく上手だなあと思いました。とてもたのしいパーティーでした。

一年生では算数を頑張ります。体育がとても楽しみです。勉強を毎日頑張って将来はお医者さんになって患者さんの病気を治したいです。



▶社員相互のありがたうの繋がり「サンクスカード」

行動基本の一つである「感謝の気持ちを表そう」の実践としてサンクスカードを行っています。業務内外での感謝の気持ちを名刺サイズ代のカードに記入し、みんなに見えるように掲示、その後カードは給料明細と一緒に受け取る方へ渡されます。2022年度は3,521枚でした。



▶岡山ロータリークラブ優良従業員表彰

長年に渡り職務を通じて社会に貢献した「優良従業員」の表彰式が行われ、当社からも1名が表彰を受けました。

受賞者感想



土木資材部
植山 勝彦

石油部、土木資材部で仕事をしてきた25年間の中には良い思い出もそうでない思い出もありますが、今となっては全てが私の経験として、私の財産になっています。数えきれないほど多くの方に出会い、一緒に仕事をする中で自分自身を成長させてもらったのではないかと思います。



▶女性の現場見学

お客様や現場を訪れることで、お客様のニーズを把握し、より喜んで頂ける仕事ができるようになること、自分の仕事がどのように社会に係っているかを知ること、それらを自身の仕事に活かすことを目的としています。事務所にいることが多い女性事務職ですが、普段とは違った環境にいい刺激を受けることができ、仕事へのモチベーション向上にも繋がっています。

参加者感想



ガラスサッシ部
大園 奈緒

表町再開発「芸術創造劇場ハレノワ」の現場見学に参加しました。商品説明をしてもらいながら建物内を歩くことが出来たので、よりこの現場についての知識や思い入れを感じました。オープンしてお客さんが入っている会場を見るのが楽しみです。



2022.11.22

持続可能な環境への取組（環境）

▶古紙回収ステーション「eポスト」を設置しました

平林金属様の協力のもと、古都宿SS・セブン・イレブン岡山古都宿店敷地内に古紙回収ボックスの「eポスト」を設置しました。当店の回収ボックスは、「段ボール」と「新聞・雑誌など」を捨てられる2種類があります。1キロにつき1ポイント貯まり、貯まったポイントはセブン・イレブンで使える割引券になります。給油、洗車、セブンの買い物、ペットボトルの回収、そして今回の古紙回収と、同じ場所で複数の用事をする事が可能となり、さらに古都宿の利便性を向上させることができました。お客様にも喜んでもらっています。



まだ始まったばかりですので、より認知していただき、複合店として更に成長していけるように取り組んでいきたいと思えます。皆様も近くに来ることがあったらぜひご利用ください。

▶サービスステーション計量器の入れ替えを行いました

自動車への給油時には、光化学スモッグの原因物質のひとつである揮発性有機化合物（VOC）を含む燃料蒸発ガス（「ガソリンベーパー」）が発生します。

この度、Dr.Driveセルフ平野SSとセルフ古都宿SSに、給油ノズルにカバーが付いた計量器への入れ替えを行いました。このカバーには、ガソリンの給油中に、気化したガソリンベーパーが大気中に漏れ出るのを防ぐ役割があります。

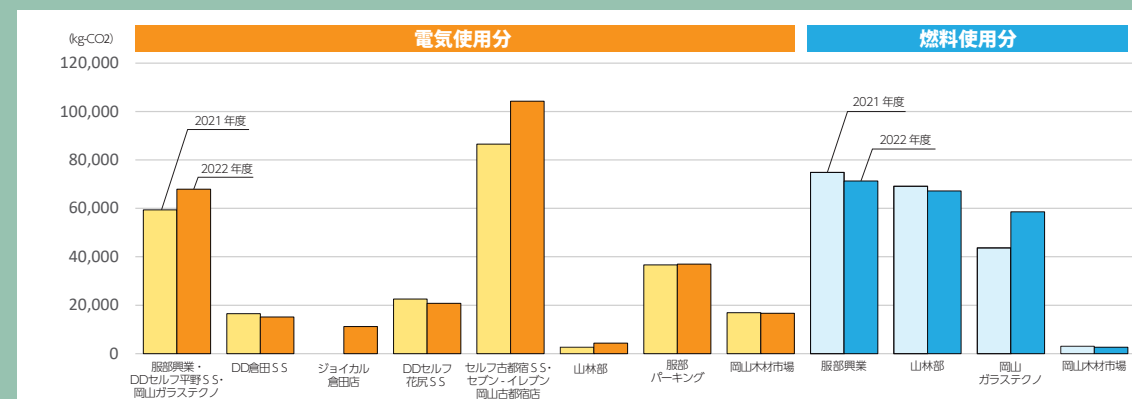
今後も環境負荷の少ないサービスステーションを推進し、お客様のカーライフの充実に寄与してまいります。



▶事業活動のCO2排出量

事業の中で排出しているCO₂量の算出を行っています。主に電気使用量と営業車や重機等の燃料が対象です。数値化することにより事業活動の環境負荷を明示することで、資源を大切にすることを意識の醸成や省エネ行動・エコドライブといった行動に結び付けていきます。

2021年度	436,973 kg-CO ₂
2022年度	477,023 kg-CO ₂



▶コピー用紙使用量集計

意識して無駄な紙の削減につなげようと服部興業本社では個人ごとの印刷枚数を集計し共有しています。この取り組みはSDGs 目標「12. つくる責任つかう責任」のターゲット「12.5 2030 年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」の達成を目標としています。また、裏紙の使用も推奨しています。

年度累計比較（すべて A4 として計算）			
	2021 年度	2022 年度	増減
枚数	319,644	273,635	▲46,009
焼却時の 二酸化炭素 排出量 (kg)	434,716	372,144	▲62,572
削減による 二酸化炭素 吸収量 (kg)	-	-	41.8

▶エコキャップのリサイクル

2018 年からペットボトルキャップの回収を行っています。ペットボトルキャップは焼却すると 1 k g につき約 3,150g の Co2 が発生します。2022 年度は 326.42kg の Co2 削減につながりました。

年度別寄付数量					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
個数	19,932	11,610	22,683	11,610	44,559
重量 (kg)	46.35	27	52.75	27	103.63
CO ₂ 削減量 (kg)	146	85.05	166	85.05	326.42

法令を遵守した事業活動（公正な事業慣行）

▶安全に仕事を行うための有資格者を増やす取り組み

グループ従業員だけでなく、協力会社向けにも安全教育を行っています。写真の「職長・安全衛生責任者能力向上教育」は協力会社 13 名を含む 35 名を対象に行いました。5 年毎に再教育が必要となるため、今後もフォローしていきます。

ともに働くパートナーである協力会社の方々が安全に業務にあたっていただくことは、当社にとっても非常に重要です。ともに安全意識を高め、安全で質の高い仕事を行っています。



お客様の安心と満足のために（消費者課題）

▶ジョイカル倉田店オープン

1 月 14 日に、Dr.Drive 倉田 SS に隣接した車両販売・コインランドリー・カーコーティングブースのジョイカル倉田店がオープンしました。服部興業は倉田は 40 年以上店舗を運営しています。従来の倉田 S S ・ロッセリアを含め、5 つの店舗が併設されるということで、地域のお客様により便利にご利用いただける施設へと生まれ変わりました。お客様の需要に応え、よりよいサービスを提供していけるように今後も努力していきます。



▶服部パーキングおもてなし研修

岡山高島屋上條社長を講師に「接客」とは何かをテーマに研修を行いました。社員計 9 名が 2 グループに分かれ、意見を出し合いました。

参加者感想



服部パーキング
倉田 誠司

研修の最後に上條社長から「言い方が下手な人は自分基準（エゴイスト）。できる限り相手の気持ちになってみる」との助言を頂きました。研修では皆から活発な意見が出て、意義な時間となりました。今後の業務に活かし、愛されるパーキングを目指したいと思います。



▶セブン・イレブン接客コンテスト

参加者感想

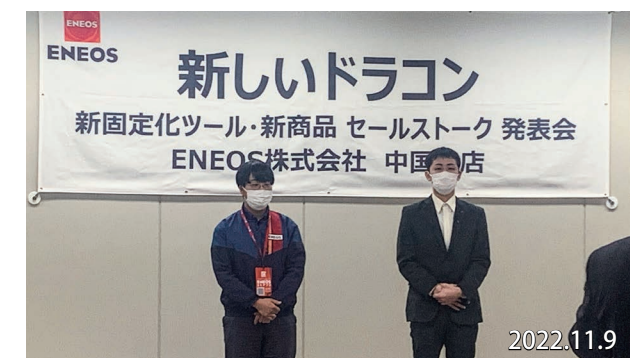
セブン・イレブン
岡山古都路店
北野 辰樹



セブンイレブンが開催する接客コンテストに参加しました。事前に研修を受け、セブンイレブンについての知識や接客、メンバー育成などを学びました。当日は自身の発表をした他、他の参加者の接客を見ることができ、丁寧さやフレンドリーさなどとても勉強になりました。今回のコンテストで学んだことを、メンバー全員の接客レベルの向上につなげられるように取り組んでいきます。

▶ENEOS ドライブウェイコンテスト

ENEOS 中国支部で接客力向上のために開催された「新しいドラコン（ドライブウェイコンテスト）」に Dr.Drive セルフ花尻 SS から社員 1 名が参加し、接客の発表を行いました。自身の声掛けの内容改善と他社の取組について学ぶことができた経験となったようです。この経験を他メンバーへも波及させ、よりお客様に愛される SS を目指していきます。



地域の皆様とともに（コミュニティへの参画）

▶ 健活企業支部長表彰受賞

服部興業は全国健康保険協会（協会けんぽ）岡山支部より、従業員の健康増進を図り業績向上につなげる「健康経営」に積極的に取り組む協業として健活企業支部長表彰を受賞しました。健康診断の再検査対象者への再受診勧奨や毎朝実施しているラジオ体操、従業員同士を感謝の気持ちでつなぐサンクスカードなどが評価されました。今後もより働きやすい職場を目指して一つひとつ改善を積み重ねていきます。



2022.8.10

▶ ファジアーノスポンサー招待デー

2018年のJ2昇格当初から、オフィシャルスポンサーを務めています。2022年度のスポンサー招待デーは9月10日のVS. モンテディオ山形で、従業員とご家族、取引先の方々を招き合計149名で観戦しました。無発声応援ではありましたが、2-1で勝利し、大変盛り上がった試合となりました。今後もJ1昇格とチーム理念の「子どもたちに夢を」実現を後押しし、ともに岡山を盛り上げる存在になれるよう努力していきます。



2022.9.10

▶ ファジアーノコラボ特市

岡山木材市場にて、ファジアーノ岡南北川信也社長をお招きし、ファジアーノ岡山コラボレーション特市を開催しました。北川社長にセリを担当してもらったり、広報部長にファジアーノの歩みと展望をお話いただいたりといつもと違う特市の雰囲気を楽しんでいただきました。サッカーと木材業界と畑は違いますが、これからもお互いを盛り上げていける様な取り組みを考えていきます。



2022.9.8

▶ 岡山県立大学・まつもとコーポレーションオフィスレイアウトプロジェクト

岡山木材市場は岡山県立大学とまつもとコーポレーションの共同研究である働きやすいオフィスレイアウトプロジェクトに、木材・建材の知識伝授と活用法のサポートとして参加しました。県産材の利用促進や桧や杉の特性を活かした使用用途など木のプロならではの提案をすることができました。



▶ おかやま SDGs プラザワークショップ

岡山コンベンションセンター様のご依頼でヒノキでマイ箸を作るワークショップを行いました。小学生19名が参加してくれ、真庭のヒノキに触れてもらいうい機会となりました。

参加者感想



山林部
安藤 翔

山の木がみんなの使う木製品になることを伝えられたこと、五感で木を感じてもらうことが出来たことがうれしいです。今後もこのようなチャンスを活かして木の魅力を伝えていきたいです。



2022.8.2

▶ 就実大学大塚ゼミインタビュー

就実大学経営学部で企業理念や企業のSDGsなどを専門としている大塚ゼミのインタビューを受けました。当日はゼミ生10名に企業理念のミッション・ビジョン・バリュー・行動規範の位置づけなどについて回答しました。あらためて事業を通じたSDGs活動や企業理念について考えるいいきっかけにもなりました。



2022.7.12

▶ 第三回 BeLive に協賛しました

「BeLive」とは、高校生と企業が関わり合いながらSDGs・社会課題に挑むことを目的とした取り組みです。8月16日に国際交流センターで開かれた「『探究』活動サポートイベント」では服部興業グループのSDGsの取組を紹介しました。これからも高校生のSDGsや社会課題解決に向けた姿勢を応援していくとともに、共に取り組むことができる機会を模索していきたいと思っています。



2022.8.17

▶ 中学生との交流 金光学園中学校「だっぴ」に参加しました

「だっぴ」とは、NPO法人だっぴ主催の、一人ひとりの若者が自分らしく生き方を選び、人と人がつながり支え合う社会を作るプロジェクトです。

参加者感想



岡山木材市場
神谷 佳樹

金光学園中学校で行われた「だっぴ」に参加しました。中学1年生の部を担当し中学生と社会人計5名のグループで「今後の生き方を考える」を目標にテーマに沿って対話しました。中学生からの質問に大人が本音で応える時間では「仕事とは何か」「今の自分を作る過去の経験は」など深い質問もあり即座に応えるのは難しかったです。私の話が生徒の為になっていたらいいなと思うのと、中学生の素直な意見を聞いたり、ありのまま話することで自分を見つめ直すこともできたりと、私自身も良い経験になりました。

▶岡山県立大「吉備の杜」創造戦略プロジェクト

当社所有林で建築やデザイン分野を勉強している学生を対象に授業を行いました。実際に山を歩きながら人工林と天然林の違いや林業・山の役割を学んでもらったり、実際に木を倒してもらうことで林業の大変さを感じてもらいました。丸太切りでは木の匂いや年輪の模様を楽しみ、何人かはスマホスタンドが作れないかと構想を練っていた学生もいて、私たちにない発想に感心しました。今回感じた山や森の魅力を今後の建築やデザインにも活かし、発信してくれたら幸いです。



▶岡山後楽館中高生森づくり指導

蒜山・真庭トンボの森にて16名の中学生・高校生と一緒に森づくりを実施しました。ナラ枯れ病によって枯れているコナラを切り倒したものを、中高校生にノコギリで玉切り作業してもらいました。山のことを質問してくれる生徒もいて、コミュニケーションが図れたと同時に山林に興味を持ってくれたことが大変うれしく感じました。



▶美作大学環境学習指導者養成講座

保育や調理担当を目指す学生たち41名を対象に、蒜山・中和の真庭トンボの森にて指導に携わりました。木を伐る意味や林業の危険な部分などを伝え、伐倒木の枝をのこぎりで切り落とす体験してもらいました。実際に山の中に入り体験することで、経験がより記憶に残ります。特に子供たちにそのような経験を与えることが、子供たちのみならず我々林業に携わる者にとってもプラスとなると信じてこれからも協力していきます。



▶高校生×企業～岡山のキラリと光る「仕事」「働き方」

開かれた公民館ワーキングチームが主催する「高校生×企業～岡山のキラリと光る「仕事」「働き方」」に参加しました。高校生22名に当社の事業内容やSDGsの取組について講演した他、真庭の山で出た端材を活用した新しい取り組みについて考えるワークショップを行いました。



▶吉備中学校職場体験

Dr.Drive セルフ花尻SSにて、中学生の職場体験を受け入れました。受け入れた男子生徒二人とも機械に興味があって当社を選んでくれたようで、実際にタイヤの脱着作業を体験してもらった際などは事前に動画などで予習をしてきてくれたようでとても筋が良く積極的に作業してくれました。いい経験を提供することができたと感じました。



▶KOTOMO 基金寄付

おかやま NPO センター様を訪問し KOTOMO 基金への寄付を行いました。従業員から預かった寄付金 63,000 円に会社から同額を上乗せし代表の石原達也様にお渡ししました。SDGs の考え方「誰一人取り残さない (leave no one behind)」社会実現のため、今後もできることから取り組んでいきます。

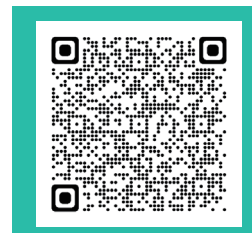


▶トルコシリア地震寄付

岡山ユニセフ協会様を訪問し、トルコシリア国境大地震で被災された方々の支援に役立ててもらおうと4服部興業グループで集まった寄付金をお渡ししました。今回は、従業員64名から計56,500円の寄付が集まり、会社から同額を加算した合計113,000円の寄付となりました。今後も一人ひとりが利他の心を持ち、地球規模の課題も自分事としてとらえ、できることから行動していけるようなきっかけづくりを行っていきます。



ご意見ご感想をお聞かせください



服部興業グループ CSR レポート 2023 についてのアンケート

代表挨拶

CSR 報告書を読む会
代表幹事 川元 盛樹

コロナ禍によってこれまで当たり前であったことができなくなりました。しかし、それでは同時に新しい働き方やライフスタイルを前進させることにもなりました。これまでは、1日8時間オフィスで働くことが当然視されていましたが、リモートワークが急速に広がりました。また、体調不良であっても重篤でないなら出勤して働いていた人が多いと思いますが、コロナ禍によって体調が悪ければ休むということが定着しました。コロナ禍は生活に変化をもたらしています。

コロナ禍の3年間で世界も大きく変化しています。ロシアによるウクライナへの軍事

侵攻、物価の急激な高騰、地球温暖化のさらなる悪化。こうした現実に対してどのように向き合い、どう解決していけばいいのでしょうか。さらには、混迷を極める日本の政治状況を考えると、社会全体が機能不全に陥っています。

これからは、自立思考し行動していくことがより重要になってきます。SDGsの視点を指針にしながら社会の変化と混乱に向き合っていくことで、持続可能な社会の構築の一助になることができるはずです。

企業として一体何がでるのか、何をしていかなければならないのかを本業に照らし、全社員と一緒に考え、地域住民をも巻き込んだとりくみを行うことができる企業への発展を祈念します。

代表幹事
川元 盛樹

岡山県労働組合会議



特筆すべき点

すべての従業員が安心して働き続けることができる職場を目指していることが伝わってきます。従業員にとっての安心は、「病まないこと」「辞めないこと」にあります。そのため御社では心理的安全性を経営トップが意識され、従業員ひとり一人の実力が発揮できるように促されている点は大いに評価できる点です。

さらなる取り組みを期待する点

長く働き続けることのできる企業をつくるためには、キックオフ、表彰制度やスキル支援を充実させることは、事業成果にも直接リンクしていくため客観的に重要性がわかりやすい取り組みです。しかし、誕生日のお祝い、結婚・出産・新築祝い、新入学のお祝いが事業成果にどのような影響を及ぼしているのか、またどのような変化を期待されているのかを明らかにすることでより社会的インパクトに向けた企業活動を明確にできるものと思われます。

幹事
小桐 登

岡山県ボランティア・
NPO 活動支援センター
CSR 担当



特筆すべき点

CSRならびにSDGsへの取り組みを事業活動の目標として数値設定され、振り返りを行い、次年度以降の改善として取り組みをされており、年々その活動は進化していると感じます。

男性育児休暇取得を法律の順守にとどまらず、職場での包括的な取り組みをされたことはすばらしいことです。経営理念の実践がトップから社員まで共有され、日常的に実践されていると考えます。コミュニティへの参画やコミュニティの発展については、さまざまな分野で実践や連携をされており、社会課題を自分事として行動する姿勢は評価されます。

さらなる取り組みを期待する点

環境面に関する取り組みで、事業活動での環境負荷量を数値化されていますが、マネジメントというレベルにはまだ達していないように思います。環境マネジメントのシステム導入を検討されても良いと思います。地球温暖化の影響は毎年激しさを増しています。会社として、また社員一人一人が取り組みを強化することは、社会的責任を果たすうえでますます重要です。また、新たな社会の動きとしてLGBT理解増進法が制定されました。職場での理解を深めるための研修を開催され、社内での共通理解のベースをつくられることを期待します。

幹事
築谷 淳志

公益財団法人
岡山県環境保全事業団
環境創造部 部長



特筆すべき点

世界的な社会経済の混乱が続く、資源エネルギーの高騰など組織が持続可能であることが益々重視される状況下で、地域のインフラを提供される企業として、社会責任を果たし続けられていることに敬意を表します。各部署が漏れなく目標をたてグループ一丸となつての活動を継続されており、社員の働き方改革や地域との交流を部署間連携と取り組まれていることが、今後、貴社が顧客や周辺住民に支持され、後継者育成に繋がる結果となることを期待しております。

さらなる取り組みを期待する点

大幅な温室効果ガス削減による緩和への取り組みと同時に、気温上昇や集中豪雨など現実化する気候変動への適応の重要性が増す状況下で、貴社の今後の事業展開に期待します。特に、オフィスビルや住宅における断熱を中心とした省エネや太陽光発電の導入は、今後大幅な温室効果ガス削減が期待される分野において、顧客の創造を拡大出来れば、組織の持続可能性も高める三方良しの展開が期待できると考えます。

幹事
石原 達也

特定非営利活動法人
岡山 NPO センター
理事長



特筆すべき点

2030年問題と言われる日本全体で人口減少と少子高齢化がさらに深刻化する状況が迫る中で人材の確保と育成は最重要課題の一つであると思います。その中で、県内の大学生・高校生・中学生に対する職場体験にとどまらない様々な取り組みは地域と、そして自社に対する重要な投資であり、これだけ様々なメニューを取り組まれていることは特筆に値します。SDGsにおいても目標4の教育、特に4.4、4.7に貢献する取り組みだと考えます。

また弊組織のKOTOMO基金へのご寄付にあたり「誰ひとり取り残さない」というSDGsの基本理念で取り組んでくださっていることもSDGs目標1の貧困対策、特に1.2に貢献するものであり、また地域全体で子ども・人を育てる意思を強く感じました。

さらなる取り組みを期待する点

WMOにより気候変動の影響で暴風雨や洪水、干ばつといった世界の気象災害の数が1970～2019年までの50年間で5倍に増加したと発表されたように、日本国内でも毎年、梅雨および台風の時に水害が発生し、また地震による被害も増えています。こうした状況下で、森林の水源涵養機能は再評価をされるべきことであり、局地的な豪雨などのリスクを想定した森づくりやその啓発にはさらに一歩踏み込んだ取り組みを期待します。あわせて、災害はいつ起きるかわからないという点から、お客さま、社員の皆さま、取引先などステークホルダーが「被災者」となった場合を想定しての各店舗や事業所での備えの強化も期待します。

特に「緊急避難」だけでなくその後の「避難生活」の支援も想定した投資もご検討いただければ心強いです。



〒 701-0151 岡山市北区平野 620

TEL (086) 293-2111 FAX (086) 293-2112

<https://www.hattori-k.co.jp> Email:info@hattori-k.co.jp